

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 稲城市立稲城第五中学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒206-0803
東京都稲城市向陽台3-1-1

E-mail inagi5-j0001@educet.plala.or.jp

Website academic3.plala.or.jp/inagi5-j/

児童生徒数 男子 261名 女子 234名 合計 495名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（地域連携）

3. 活動内容

[1] 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 自校の課題と、子どもたちに育みたい力について

本校では、ユニバーサルデザインを意識した「分かる授業」「楽しい授業」の工夫と改善に努めている。「授業が分かる」と肯定的に捉えている生徒数は8割を超えるが、基礎的・基本的な学習や家庭学習の定着については未だ課題がある。何事においても意欲を持ち、前向きに取り組もうとする生徒の姿勢を大切にしたい。授業はもちろんのこと、すべての教育活動において生徒の主体的な取組を促し、体験的な活動を通して思考力・判断力・表現力を身に付け高めたいと考えている。

そのためユネスコスクールの理念でも取り上げられている持続可能な社会づくりに向けた教育を推進する必要がある。様々な問題を解決しながら、生徒の主体性を育むと共に、社会の一員として活躍できる力としての「社会的実践力」の育成につなげることを図りたい。

2 実践内容

(1) 人権教育及び道德教育の推進

1学期と3学期の土曜日に道德授業の公開を行い、2学期の道德授業地区公開講座では地域にも公開して、講師を招き懇談会を設定した。

(2) オリンピック・パラリンピック教育の推進

- ① 「オリンピック・パラリンピックの精神」と「学ぶ」を関連させて、社会の地理的分野ではヨーロッパの単元で、歴史的分野では古代ギリシアの単元でオリンピックの歴史や文化的背景を学んだ。道德では教材に障害者スポーツを取り上げた。
- ② 体育では健康・体力の維持増進の観点から取り組みを行った。保健の授業では「文化としてのスポーツ」の単元を取り扱った際に、オリンピック・パラリンピック学習ノートにまとめる取り組みを行った。
- ③ 図書ホールにオリンピック・パラリンピックコーナーの棚を設置し、関連する本を約50冊配架して、生徒の自発的な興味・関心を高める取組を行った。
- ④ 「スポーツ（オリンピック・パラリンピック種目）」と「観る」「学ぶ」を関連させて、やり投げの村上幸史選手を講師に招聘し、トップアスリートによる講演会を実施し、オリンピック・パラリンピック学習ノートにまとめた。（校庭での実技披露も予定していたが、降雪のために実施できなかった）
- ⑤ 1年生の野沢温泉村宿泊体験学習の中で、アルペンスキーの片桐幹雄氏による講演会を行った。
- ⑥ 女子の体育の授業では、体力向上を促す運動器具「ステッピー」や「トワールングバトン」を導入して、運動量を効果的に増やす取り組みを行った。
- ⑦ 表千家同門会による茶道体験と、池坊による華道体験を実施した。茶道体験では、全員がお手前を体験すると共に、茶道の精神についての講話をうかがうことができた。華道体験では、全員が生け花作品を創作する体験を行った。
- ⑧ 修学旅行で日本文化を学ぶための体験学習を取り入れ、茶道・華道・能などの触れる取り組みを行った。また、奈良・京都で外国人観光客と英語を使った交流を課題に取り入れた。
- ⑨ 地域との連携を軸に、毎週木曜日に民生児童委員の方々と「あいさつ運動」を実施した。9月以降は生徒会役員が中央委員会で提案し、生徒会役員に加えて、各委員会も参加する取り組みに広げることができた。
- ⑩ ボランティア部や吹奏楽部は、5月の連休に行われた「稲城手づくり市民祭り」や、夏休みに行われた自治会主催の「夏祭り」などの地域行事でのお手伝いに取り組んだ。また陸上部やサッカー部、野球部などでは朝の清掃活動や、校内整美のボランティア

活動に集団で取り組んだ。

(3) キャリア教育の充実

1年生での職場訪問や職業人による講話、2年生での職場体験(3日間)や上級学校の先生方による出前授業、3年生の進路指導、全校生徒を対象としたあいさつ運動やボランティア活動を実施した。

(4) 地域防災教育の実施

①ねらい

- 災害の自然的・社会的な要因を知り、今後の学校、地域の防災体制を考え、持続可能な社会の実現に貢献する意欲を高める。
- 地域合同防災訓練を通して、自分たちの住む地域の防災に関する準備の実態を知り、地域防災の意義について考え、防災に対する意識を高める。また、防災訓練への参加を通して、地域を持続発展させるためには何が必要かを考えさせる。
- 災害発生時に、家庭や地域で、自分たち中学生ができることは何か、地域の一員として地域住民と協力してできることは何かについて、「自助」、「共助」、「公助」の視点から考え、防災意識を家庭から地域へ波及できるリーダーを育成する。

②実践内容

地域にある18箇所の防災組織と連携し、保護者や体育振興会委員・民生児童委員等の方々の協力を得て、「地域ふれ合い防災訓練」等を実施した。

●第1学年(1・2校時目)

「地震がきたらどうする?」～講師は稲城消防署防災チーム。非常用持ち出し袋の中身をなぜ3日間分用意するのか、自分の命は自分で守ること(「自助」)、地域の戦力として友人・隣人・通行人を助けること(「共助」)、さらにケガ人の「止血法」「搬送の仕方」など、中学生が身の回りのものでできる救助についても学んだ。

●第2学年(1・2校時目)

「AED訓練」～講師は日本赤十字社東京支部スタッフ。各教室での「AED操作訓練」を実践的に行った。

●第3学年(1・2校時)

「地域ふれ合い防災訓練」

訓練目的～学区に直下型地震による災害が、多くの大人が勤務先に出勤している昼間に発生したことを想定し、中学校、稲城消防署、自主防災組織、地域住民が一体となった訓練を通じて、災害時対策の習熟と防災関係組織との協力連携体制の確立及び地域住民の災害対応力の向上を目指し、地域防災意識の高揚を図る。

訓練内容～ポンプ操法訓練(可搬ポンプの活用)

避難所設営訓練(中学生による避難所設営)

炊出し訓練(中学生と地域との連携による炊出し)

防災倉庫確認訓練(中学校防災備蓄倉庫の把握)

3 実践によって得られる成果の発信方法や内容

(1) 毎月発行している「学校だより」や「学校ホームページ」を活用して、広報活動を実施した。

(2) 11月5日(土)に実施した「地域ふれ合い防災訓練」には1,000名を超える保護者や地域住民、隣接する小学校の児童等が参加し、ユネスコスクールの理念を実践することができた。今後も保護者や地域の方々からの協力を得ながら、取組の充実を図っていく。

[2] 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）